

向学館通信

2006・2・27

防犯のため、授業中はドアをロック。

これまでは授業中でも、鍵をかけていませんでした。今は突然の侵入者などを警戒して、ドアをロックしています。

定期テストの時期の生徒は、計画的に勉強しましょう。塾へ来て自習をするなど頑張ってください。

期末テストの時期です、対策は？

学校の定期テストに対しては、生徒によって対応に大きな差があります。ある人は、2、3週間まえからどんどんテスト範囲の問題をこなし、つぎつぎとプリントを要求してきます。ところが、他方で、普段と何も変わらないような態度で、まったくテストの準備もしない子もいます。

私どもは、テスト前は全科目を学習するように、また、少なくとも2週間以上前から取りかかるように、という指導をしています。全然いうことを聞いてくれない人がかなりいます。ご家庭での指導の差もかなりあると思います。

この前の定期テストでは、塾で普段していない国語の問題などを家でしてくださいとプリントをわたしました。ある中学生はそれをせっせと家でやったおかげで89点もとれて、喜んでいました。ところが、もう一人は、まったくそれらのプリントを見もしなかったのか、成績が40点台でした。(たぶん、プリントをもらっていることさえ、家の人に話していないのではないかと思います)。せっかくこちらが準備してもそれに応じてくれない子には、本当に困っています。

いま、中学では、公立高校を受験するばあいでも、中学3年間の成績と本番の受験での成績とがほぼ同じウェイトで評価されます。だから、中1、中2の間は遊んでいても中3で頑張ればいいという、昔のような環境ではないのです。(こういう事態を私個人としてはいいとは思っていませんが、こういうシステムにされてしまったのですから、この中でよりよい対応をしなければ損です)。

また、高校生の場合、指定校推薦という大学進学の手がかりがあり、これは各校ともかなりの人数がこの道で進学できるように準備されています。しかし、この道は、高校3年間を通じて全科平均が「3.5」(5段階評価で)とか「3.7」など、大学側が受け入れの基準を示しています。「3」以下で入れるところは少ないし、また、あってもあまり行きたいと思うところではないようです。

高校生は1、2年の間に、指定校推薦の状況を知っておくと、目標にもなり、うまくいけば本番の大学受験なしにある程度の大学に進めます。しかし、この道を利用するには、定期試験には必ずいい成績をとっておかなければなりません。

どうか、ご家庭で、定期テストに対するお子様の態度などを確認してください。そして、積極的でないばあい、ご相談ください。一緒に考えましょう。

「言葉の力」を重視！ 文科省の次期学習指導要領の柱

2月9日の朝日新聞は、文科省の学習指導要領案は「ゆとり教育」から「言葉の力」を基本とする考え方に転換する方向だと次のように伝えています。

「『ゆとり』から『言葉の力』へ。約10年ぶりに全面改定される次期学習指導要領に、学校のすべての教育内容に必要な基本的な考え方として、『言葉の力』を据えることがわかった。(中略)

原案では、日本の子供の学力について、04年12月に公表された国際学力調査の結果をもとに、成績低位層が増加する「二極化」が進行していると分析。なかでも、読解力や記述式問題に課題があるなど、学力低下の傾向があると認めている。(中略)

これを補うため、・・・『言葉の力』をすべての教育活動の基本的な考え方にとすると明記している。」

わが塾がここ数年間、力を注いできた「国語力・論理力」の必要性がようやく国のレベルでも確認されてきたと、うれしく思っています。